第82号　長野地区会ニュース

平成　29年　12月　25日
発行　国臨協長野地区会
発行責任者　金子　司
編集責任者　植松　明和

CONTENTS

◆ 第45回国臨協関信支部学会地区会コーナー優秀賞を受賞して
まつもと医療センター　浅川 和也

◆ 抗酸菌遺伝子検査装置を導入して
信州上田医療センター　矢野 政敏

◆ HOLOGIC® パンサー®システム HIV-RNA定量試薬の国内販売に向けた臨床研究について
まつもと医療センター　青木 悠太郎

◆ 新会員紹介

第45回国臨協関信支部学会 地区会コーナー優秀賞を受賞して

まつもと医療センター　浅川　和也

平成29年9月2日に開催された国臨協関信支部学会ポスター展示において、地区会コーナー優秀賞を受賞することができました。大変ありがとうございます。ポスター展示は優秀賞が設けられたこともあり、年々各地区会で趣向を凝らした個性豊かで優れたポスターが展示されるようになりました。

「今年は優秀賞を！」と話し合いを始めたのですが、中々良い案が出ず昨年度のポスターと睨めっこでした。そんな中、まずはみんなの目に留まるようなインパクトのあるもので夏らしいものがいいのではないかと意見がありました。そこでピンときたのが長野にはたくさんのお祭りがあり、施設で参加しているものもあるということでした。長野びんずる、上田わっしょい、松本ぼんぼん、小諸ドカンショ等々あり、写真もただの集合写真ではなく、法被を使ったり、お祭りに参加した写真など使ったりなどして工夫をしました。制作しているなかで、地域と共に一丸となってイベントを盛り上げるということは素晴らしいことだと思いました。このポスターで、長野地区会も一丸となって関信支部学会を盛り上げたい、という思いが伝わればいいなと思い制作しました。しかし作ってはみたものの、施設紹介が無いばかりか、全面にお祭り感が出てしまい、さすがにやり過ぎた、と思ったのですが、理事の中では意外に好評で、そのまま出展することになりました。

学会当日、展示コーナーに貼りだされた各地区会のポスターは、どこも創意工夫され素晴らしい内容となっていました。そんな中で優秀賞をいただくことができ光栄に思っています。この賞を励みに、長野地区会をさらに素晴らしく楽しい会にしていきたいと考えています。最後に関信支部役員をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

ポスター内容は次頁

長野地区会

～盛り上げよう関信支部学会～

一九七二年開始の「長野びんずる」、一九七三年開始の「小諸ドカンショ」、一九七五年開始の「松本ぼんぼん」は、地域振興として毎年開催される長野県のお祭りです。私たち検査科スタッフはそれぞれの病院の一員として参加し、地域のみなさまとひとつになって盛り上げます。

小諸高原病院

小諸市内の市民や、事業所などから約2000人の踊り手が参加。「ドカンショドカンショ！小諸ドカンショ！」と歌いながら小諸市街を踊り歩きます。「ドカンショ」とは、浅間山の噴火音にちなんだもの。アニメ『あの夏で待ってる』の舞台にもなったことから、全国のアニメファンも「ドカンショ」踊りに参加しています。

健速神社祇園祭

小諸市重要無形文化財である健速神社祇園祭は江戸時代から盛大に行われ、今でもお伝統が受け継がれています。荒い神輿の練り歩きでは怒涛の扇子の合図とともに神社に延びる急な階段をかけ下る「石段下り」が見どころ。

東長野病院

そーれ
そーれ

「長野びんずる」は昭和45年より始まった、長野市民のお祭りです。
「そーれ　そーれ」の掛け声とともに踊り練り歩きます。
東長野病院も毎年「連」として参加しています。

信州上田医療センター

長野県上田市では、「上田わっしょい」という上田市民の夏祭りが開かれます。昭和40年代から行われており、夕方から夜に自治会、企業、各種グループや学校単位で踊りを披露します。昨年は133団体（連）が参加、見物客は10万人と上田市を代表するイベントです。当院も毎年参加し、優秀な団体（連）に贈られる"わっしょい賞"を受賞したこともあります。
また「上田わっしょい」は踊りだけでなく、御輿・太鼓・生演奏もあるのが特徴です。商店街でも様々なイベントが開催され上田市民には欠かせない夏の風物詩となっています。
信州上田医療センターは医療貢献だけでなく、このような夏祭りに参加し、地域の皆様と交流を深めています。

長野県松本市で開催される松本ぼんぼんは1975年に始まり、今年で43回目を迎えるお祭りです。夏の風物詩であり、毎年参加者は2万人を超え、見物客は20数万人となります。松本市の人口は24万人なので、祭り当日には市の人口の1割が踊り手、観光客は市の総人口に匹敵する人数で賑わいをみせます。
この祭りは「踊りのコンクール」でもあり、会社や学校などの有志で集まった「連」と呼ばれるグループが踊りを披露し合います。
松本ぼんぼんの見どころは何と言っても「息の合った踊り」です。
まつもと医療センターでは、2018年5月に松本病院と中信松本病院が松本病院の地で一緒になります。これを「一体地化」と言います。まつもと医療センターの「息の合った踊り」を見せるためには、共に練習しチームワークを磨かなければなりません。今年は残念ながら賞をいただくことはできませんでしたが、踊り手である両病院スタッフが協力し、和気あいあいとした雰囲気で一緒に盛り上がれたことは、来年の「一体地化」に向けて大きな弾みとなったと思います。

まつもと医療センター

抗酸菌遺伝子検査装置を導入して

信州上田医療センター　　矢野　政敏

今回は本年度、信州上田医療センターに導入した抗酸菌遺伝子検査装置について紹介します。

◆抗酸菌遺伝子検査装置の導入に至る経緯

当院のように、結核病床を持たない急性期中規模以下の施設では、抗酸菌の遺伝子検査装置を保有していない場合が多いと思います。しかし、近年感染対策上の観点や、安価で操作性の向上した機器が開発されてきたため、遺伝子検査装置を導入する事例が増えつつあります。我々の施設でも、まれに発生する結核患者の対応にさらなる迅速性が求められたため、機器の導入を見据え、数年前より検討や準備を行ってきました。

◆当院に導入した遺伝子検査装置について

導入した機器は和光純薬工業社製の「ミュータスワコー g1」です。機器の特徴として、測定方法は新規法であるPCR-CE(電気泳動)法が採用され、1検体から試薬が無駄なく測定出来ることや作業工程が他社の機器に比べ圧倒的に少ないことです。測定項目は結核菌群とMAC(*M. avium*と*M. intracellulare*の鑑別可能)であり、抗酸菌検査に特化しています。我々の施設では微生物検査担当者が1.5人なので、限られた人員でも安全に検査が進められ、迅速検査に無理なく対応出来る前提で本機種を選定しました。

◆機器導入後について

機器導入後、即日報告される検体は8割以上になっており、診療科やICTからは強く歓迎されています。また、本機種は発売して間もなく知見が揃って無かったため、様々な検討を行いました。その検討内容は2017年10月の日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会で報告しました。さらに、じほう社の取材を受けthe Medical & Test Journalの1面を飾ることが出来ました。

第1400号　(第3種郵便物認可)　臨時増刊　THE MEDICAL&TEST JOURNAL　2017年9月1日（木曜日）　(15)

信州上田医療センター　　提供：和光純薬工業株式会社

結核菌遺伝子検査、臨床貢献へ院内化

全自動化と迅速判定に期待

国立病院機構信州上田医療センター（長野県上田市、420床）は、和光純薬工業株式会社の全自動遺伝子解析装置ミュータスワコー g1を導入し、8月から本格稼働させた。ミュータスワコー g1は、結核菌群（MTB）と非結核性抗酸菌（MAC）を測定できる遺伝子検査システムで、核酸抽出から増幅産物の検出まで全自動で測定でき、約45分で結果が出る。同センターでは、これまで外部委託していた結核関連の遺伝子検査を院内で実施し、迅速に測定することで感染リスクの低減や臨床への貢献を目指している。同センターの臨床検査科長の前島俊孝氏、同科技師長の金子司氏、同科主任の矢野政敏氏にミュータスワコー g1導入の経緯や使用感について話を聞いた。

左から、横井氏、前島氏、金子氏、矢野氏

信州上田医療センターは、長野県の上小医療圏（上田市、東御市など）の基幹病院として、救急医療や周産期医療に注力しているほか、近隣の病院や診療所と連携した地域医療を提供している。

長野県は全国的に見て結核の患者が多い地域ではないが、同センターでは年間約10人程度、結核患者を診ている。約10例のうち半数程度が塗抹検査で陽性例となっており、排菌量が多い患者も来院する。結核疑い患者の対応について、院内では上に検査結果をいち早く出すことが課題になっていた。

臨床検査科主任の矢野氏は、「通常は4～5日かかる測定を、外注の検査業者の協力で3日程度に短縮してもらっていたが、それ以上早く結果を出すには院内で検査を実施するしかないと考えていた。呼吸器内科の医師やICTからも、遺伝子検査を院内に導入してほしいという要望があった」と話す。2年ほど前から遺伝子検査システムの院内導入に向けて、複数のメーカーの機器のデモはこの段階で殺菌されキャップを閉じたまま機械にセットするため、エアロゾルの発生を抑えている。また測定前準備段階のマニュアル操作を1ステップにすることで、コンタミネーションのリスクを低減した。

試薬の調整は不要で、試料、試薬カートリッジ、核酸精製カートリッジ、チップユニットの4点をセット

矢野氏

人が機器につきっきりになるようでは使えない。スタートした後は全自動で人手を介さない測定ができることも大きな利点」と指摘。国立病院機構では職員の転勤もあるので、経験が少ないスタッフでも簡単に操作ができ、同じ結果を出せる機器は有用性が高いと説明した。

測定後の処理も簡単

試薬や核酸精製カートリッジなどの消耗品は一体型のモノテストで、

HOLOGIC® パンサー®システム HIV-RNA定量試薬の国内販売に向けた臨床研究について

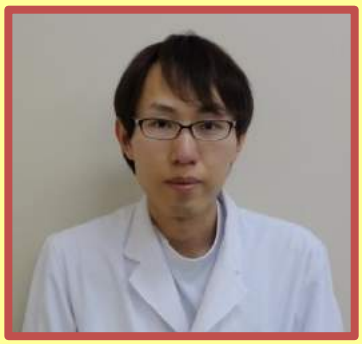
まつもと医療センター 松本病院　臨床検査科
青木　悠太郎

今回、HOLOGIC® パンサー®システム を用いた、HIV-RNA定量試薬の検討に携わるチャンスを得たので紹介させていただきます。

本研究の責任者は、当センターの北野院長です。北野院長の役割は、臨床患者から同意を得て新鮮検体を提供していただくことです。臨床検査科は、当院採取の検体及び複数施設からの保存検体を、当院に設置した本機器で測定します。又、全ての検体は、他施設の既承認機器・試薬で測定され相関データを作成します。そしてPMDAへ申請され、新たなHIV-RNA定量試薬が国内販売されることになります。次に、本機器を用いた測定の概要を記述します。

病原微生物の核酸検査は、疾患の診断や治療モニタリングに用いられています。従来の核酸検査は、細菌学的検査や免疫学的検査より感度が良い反面、熟練した操作技術が求められてきました。本機器のコンセプトは「生化学・免疫学的検査装置の自動化を核酸検査室に提案する」とのことです。
原理は、核酸増幅法と蛍光検出法を連続して行い、リアルタイムに検出します。まず、検体中の標的遺伝子と磁性粒子の検出部位特異的配列が結合します。次に、磁力捕獲中の試料を洗浄し、非特異物質を除去します。ここに逆転写酵素やRNAポリメラーゼ含有の試薬が添加され、遺伝子の増幅と検出が同時に行われます。

この度の臨床研究は実施、評価中ですが、全自動遺伝子解析装置であるパンサー®システムを用いることで操作者の技術に左右されることなく、誰が操作しても常に同じ結果を得ることが出来るのであれば、遺伝子検査で重要な精度管理の課題も解決に近づき、需要が高まるのではないでしょうか。
本機器での臨床研究は、引き続き、他ウイルスでの試薬検討が計画されています。臨床検査科が臨床研究に積極的に携わっていくことで、研究費の取得など施設への貢献も見込まれます。
従来の臨床検査科の殻を破り、より存在感を示すことができるよう、切磋琢磨していきたいと考えています。



信州上田医療センターへ赴任して

信州上田医療センター　関口　友一

この度、10月1日付けで渋川医療センターより信州上田医療センターに赴任致しました関口友一と申します。

私は埼玉病院で非常勤職員としてお世話になり、高崎総合医療センターに採用となりました。その後渋川医療センター（旧西群馬病院）へ病理主任として昇任となり、今回信州上田医療センターへ異動となりました。埼玉県から群馬県、そして長野県へと北上してまいりましたので、次は新潟県？と思っている今日この頃です。

通勤は群馬県高崎市から新幹線で通勤しており、長野の美しい自然や山々を車窓から眺めつつ毎日通勤しております。長野は多くの観光地があり、美味しい食べ物もいっぱいあると聞いていますので、とても楽しみにしております。なにか美味しそうな食べ物を見つけてはお土産に買って帰るのが今の楽しみです。

前職場では病理検査を担当しており、現職場でも病理検査を担当させて頂くこととなりました。赴任して2ヶ月経ちましたが、皆さんに助けて頂きながら日々業務に取り組んでおります。一日も早く戦力となり病院に貢献できるよう、努力していきたいと思っております。

長野地区会の皆様、これからお世話になりますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

― 編集後記 ―

厳しい寒さに、本格的な冬の訪れを感じます。

いよいよ今年も終わり。皆様にとって2017年はどんな一年でしたか？そういえば今年の世相を表す漢字は「北」でしたね。主な理由は北朝鮮によるミサイル発射や核実験強行などの脅威です。また自然災害も多くあり、九州北部豪雨や北海道台風上陸など天候不順により各地に多くの被害をもたらしました。

ところで「北」という漢字ですが、成り立ちを調べると、2人が背を向けている姿を表しているのだそうです。京都・清水寺の森清範貫主は平和な世の中を築くためには、背を向けず面と向かい合い、お互いの想いを伝えることが大切であると述べており、改めて向かい合う事の大切さを教えられました。

さて第82号地区会ニュースは関信支部学会「地区会ポスター優秀賞とりましたー。」の話題から始まり、学術の話題2題、転任者の自己紹介、そして来年2月に開催される地区交流会のお知らせを掲載いたしました。会員の皆様には今後掲載して欲しい話題の提供をお願いします。

交流会にてお会いできる事楽しみにしています。

・・・・M.

長野地区会
交流会のおしらせ

　爽やかな(?) 長野県の冬がやってまいりました！初めて長野県で越冬される会員の方もおられるかと思います。そこで、極寒のなかワインとお肉で温まり、交流を深め合いませんか？
　こんな真冬に交流会？と思われるかもしれませんが、寒ければ肩を寄せ合うことで、みなさんとの距離が更に縮まること請け合いです。何卒奮ってご参加お願いいたします。
　また、お集まりの際にハンドルキーパーを務めていただいた方には、金子会長から素敵なプレゼントを贈呈いたします。
くれぐれもお気をつけていらしてください。

日時：2018年2月3日（土）11:30から
場所：信濃ワイン → 東山食堂
会費：4,000円

プログラム

11:30	信濃ワイン ワイナリー集合
11:45	ワイン講習および試飲会
13:00	東山食堂に向け出発
13:30	焼肉懇親会
15:30	解散